

# 道路分科会 建議 中間とりまとめ 概要

## I 道路政策の現状認識

1. 一定の量的ストックが形成、一定の政策効果  
・モータリゼーションの高まりに対応した約60年の量的整備により、一定のストックが形成。  
・モータリゼーションに伴う各種政策課題にも対応、国民生活の豊かさの向上にも大きく貢献。
2. これまでの道路政策の課題
  - ① 増大する自動車交通への対応を優先した政策展開  
・戦後急激に進展したモータリゼーションへの対応を優先した結果、歩行者・自転車交通などの利用における使い勝手や、景観上・防災上に課題
  - ② 「使う」観点の欠如  
・「つくる」ことに重点、有効に「使う」観点を軽視  
・違法駐車、不法占用物件の放置等による交通機能の阻害
  - ③ 整備状況やサービスレベルの地域的な偏在  
・大都市部での環状道路の整備の遅れ  
・地方でのミッシングリンクの存在
  - ④ 他の主体や施策との連携に課題  
・ネットワークとしてのサービスレベルや地区内での道路の階層性を道路管理者の枠を越えて検証する視点が不十分  
・総合交通体系の中での道路交通システムの最適化、沿道・まちづくりとの協調に更なる改善の余地

## II 今後の社会経済の展望

1. 本格的な人口減少、超高齢化社会、縮退する地域社会  
・日本の総人口 → 2050年 約25%減  
・65歳以上の人口割合 → 2050年 約40%  
・大都市への人口集積継続、過疎地域の更なる人口減
2. 厳しい財政制約  
・政府債務残高 → GDPの約1.8倍  
・生産年齢人口の減少、社会保障関係費等の義務的経費の増大  
・社会資本の老朽化に伴う維持管理経費の増大
3. 国際競争の激化と対アジア交流の重要性の増大  
・我が国経済の世界的地位の低下、アジアの著しい経済成長  
・貿易構造が対米中心から対アジアへ移行  
・アジアとの繋がりを意識した国際競争力の一層の強化
4. 国土の脆弱性の克服  
・東日本大震災等により、我が国国土の脆弱性や低頻度大規模災害への備えの必要性を認識  
・震災を教訓とした「災害に強い国土づくり」が必要  
・首都直下型地震や東海・東南海・南海地震等の大規模災害への対応
5. 低炭素・循環型社会  
・原発事故により我が国のエネルギー需給バランスにかつて無いほどの危機  
・省エネの推進、再生可能エネルギーの積極的導入等の必要性

## III 今後の道路政策の検討にあたっての基本的な視点

### 《転換の視点》

1. 「クルマ」主役から「多様な利用者の共存」へ  
・若者の車離れや運転が困難な高齢者の増加などのモータリゼーションの成熟化に伴うクルマ以外の道路利用にとって安全・安心な道路交通環境が必要  
・クルマの交通円滑化を主目的とする幹線道路ネットワーク整備が進展  
・今後はクルマ以外の利用者も含め多様な利用者が共存できる環境整備が必要
2. 道路を「賢く使う」～利用状況やニーズの的確な反映を前提に～  
・今後の新規投資への制約  
・交通機能を阻害する要因の徹底排除、道路の使い方の工夫及び情報通信技術の活用等により、既存道路のパフォーマンスを最大限発揮  
・国民のニーズは「新たな道路の供給」から「今ここにある道路」の改善へ  
・「今ここにある道路」の利用状況や利用者ニーズを的確に把握し改善を進める、Check-Action型の政策運営へ
3. 道路を「進化させる」  
～道路の有する機能や価値の再評価・醸成・創出～  
・地域・沿道からの新たなニーズに基づく新たな機能や利用を想定  
・ICTや乗り物の進化に対応した道路のあり方
4. 国土の再編・強化に向け、  
道路の「ネットワーク機能を重点的・効率的に強化する」  
～大都市・ブロック中心都市の機能強化、  
地域間で機能・役割を効率的に分担する連携生活圏の形成～  
・今後激化する国際競争の中では、国を牽引する大都市・ブロック中心都市の強化、連携による更なる機能高度化が必要  
・地域間での連結生活圏の形成等を通じ、人口減少のハンデを移動性の向上でカバーする新たな国土・地域構造を求める必要

5. 強くしなやかな国土の形成に向け、「道路の役割を再認識する」  
～大災害に備え、強い国土を守るための道路へ～  
・東日本大震災で明らかとなった災害時の道路の果たす役割や教訓を踏まえ、今後予測される大規模地震に備える必要  
・災害面からのネットワークの弱点を再点検し、緊急性の高い箇所からの重点的整備、避難場所、災害時の活動拠点等の道路が持つ副次的機能の活用

### 《更に強化・充実していくべき視点》

1. 総合的な交通体系の中での道路交通システムの最適化  
・各交通機関のそれぞれの特性に応じた適切な役割分担のもとに、有機的かつ効率的な交通網を形成することが必要  
・各交通モードを連結、全てのトリップの末端交通を分担する道路の特性を活かし、総合的な交通体系の中での道路交通システムを最適化
2. 安全・安心でクリーンな移動の実現  
・国際的にも多い高齢者、歩行者・自転車事故への対応  
・老朽化する道路ストックの戦略的な維持管理・更新  
・低炭素・循環型の交通システムの実現
3. 持続可能で効率的な政策運営  
・事業のプライオリティの明確化、重点化・効率化  
・早期の事業効果発現・技術開発、発注方式の改善

## IV 具体的施策の提案

1. 道路の賢い使い方による多様な利用者の共存
  - (1) 多様な利用者が共存する道路空間の形成
  - (2) 交通事故削減のための更なる効率的・効果的な取り組み
  - (3) 利用者責任の明確化も含めた道路の適正な利用の徹底
2. 道路が有する新たな価値の創造
  - (1) 道路空間のオープン化・多機能化
  - (2) 道文化の再発見・醸成・創造
3. 交通結節機能の充実・高度化、公共交通利用の促進
  - (1) 交通結節機能の充実・高度化
  - (2) 公共交通利用の促進
4. 基幹ネットワークの戦略的な整備・活用
  - (1) 大都市・ブロック中心都市におけるネットワークの緊急強化
  - (2) 国土のミッシングリンクの迅速・効率的な解消
  - (3) 整備プロセスの透明化
  - (4) 効率的な物流ネットワークの強化
5. 防災も含めた国土の信頼性確保
  - (1) 大規模広域地震への備え
  - (2) 全国各地で頻発する集中豪雨や大雪に対する道路網の信頼性と安全性の確保
  - (3) 様々な手段を効果的に活用した災害情報の提供
6. 持続可能で的確な維持管理・更新
  - (1) 道路ストックの長寿命化
  - (2) 効率的な維持管理の実施
7. 低炭素型モビリティの普及促進に向けた対応、  
道路空間のグリーン化
  - (1) 低炭素型社会への対応
  - (2) 道路空間のグリーン化

## V 施策の進め方についての提案

1. 多様な利用を促進する新たな枠組みの検討
2. 利用者との協働による道路の総合的なマネジメントの導入
  - (1) 利用者の視点に立ったニーズの把握
  - (2) 多様な主体との協働
3. 早期の事業効果発現のための環境整備と評価の充実
  - (1) 事業のスピードアップ
  - (2) 評価システムの充実
4. 技術開発・活用による品質確保と道路の進化
  - (1) ライフサイクルコスト(LCC)の最小化と道路の品質確保
  - (2) 技術開発と民間の技術力活用
  - (3) ITSによる道路行政の変革
  - (4) 進化する乗り物への対応
5. 持続可能で多様な財源制度
  - (1) 持続可能で公正な高速道路料金制度への転換
  - (2) 道路の維持、管理、更新などにかかる新たな負担のあり方
  - (3) PPP/PFIの積極的な導入

## 1. 道路の賢い使い方による多様な利用者の共存

### (1)多様な利用者が共存する道路空間の形成

#### ①道路空間の再配分等による自転車通行空間、歩行空間の形成

- ・地域の道路を面的に俯瞰して、道路毎に誰が主役なのかを明確にし、限られた道路空間を有効活用する再配分を推進
- ・幹線道路については、バイパス等の整備による自動車交通の転換や分散を行いつつ、車道空間を歩行者・自転車等へ再配分

#### ②生活道路における歩行者・自転車優先の徹底

- ・生活道路における人優先のエリア作り

#### ③「スローな交通」への対応等の多様な利用者の共存

#### ④ユニバーサルデザイン、無電柱化、通学路の整備等の連携

#### ⑤多様な利用者の共存に向けた仕組みの構築

- ・一定のエリアにおける道路利用に関して、関係機関が一体的な計画を策定・実施する仕組みを構築
- ・行政と地域住民との合意形成や地域における様々な意見を学識経験者がコーディネートする仕組み
- ・事故に関するデータや全国の取り組み状況をモニタリングして公表し、地方公共団体の取り組みを促進

### (2)交通事故削減のための更なる効率的・効果的な取り組み

- ・幹線道路と生活道路における事故対策を両輪に展開
- ・プローブデータの活用等による危険箇所を面的かつ効率的な把握
- ・環境負荷の小さいラウンドアバウトの導入・展開

### (3)利用者責任の明確化も含めた道路の適正な利用の徹底

#### ①路上駐車、路上工事による影響の最小化

- ・渋滞損失等の影響を面的かつ簡易にモニタリングできる仕組みを構築
- ・利用者と道路管理者との協働による路上駐車防止に関する計画づくり
- ・レーンレンタル制度等を参考にした最適な工事時間や時間帯等の設定とその実現のための誘導策の導入等による路上工事の縮減

#### ②沿道利用変化に伴う影響の最小化

- ・交通アセスメント制度の導入可能性の検討

#### ③大型車両の利用適正化

- ・事業者等への啓発を行った上で、大型車両の違反通行データ等の活用、違反者の公表等による指導・取締りの実効性向上

## 2. 道路が有する新たな価値の創造

### (1)道路空間のオープン化・多機能化

#### ①道路の上下空間に建物を建設するための空間としての活用

- ・立体道路制度の制度拡充を通じた民間開発・まちづくりと一体的な更新手法の整備、自由通路・駅ビル等の一体的整備

#### ②たまり場や収益活動の場としての活用

- ・街の秩序や美観を保つためのまちづくり関係者が連携する仕組みの検討

#### ③公共空間としての機能向上

- ・地域の顔として誇れる景観形成、津波対策の標高表示等による公益に資する空間形成、街路樹管理へのボランティアの活用

### (2)道文化の再発見・醸成・創造

- ・文化が交流する道としての認識、街道・古道といった既存の道文化の再発見、新たな道文化の創造などを通じた道路の持つ機能の発揮
- ・NPOや地域住民などとの連携・協調により、道路の文化的な価値や機能を一層高め、活用していく取り組みが必要

## 3. 交通結節機能の充実・高度化、公共交通利用の促進

### (1)交通結節機能の充実・高度化

#### ①主要な空港、港湾、鉄道駅などへのアクセス向上

- ・高速道路から主要な空港、港湾、鉄道駅等の交通拠点へのアクセス状況について、再点検し、スムーズなアクセスへと改善

#### ②交通結節点における乗り換え利便性の向上

- ・交通結節点での案内の充実・上下移動を抑制した歩行者動線確保等により、交通手段毎の動線を整序、乗換利便性の向上を実現

#### ③交通結節点の高度利用の推進

- ・駅前広場の立体的整備、道路空間の上空利用により、都市機能を集積
- ・特定地域での集中的事業を可能とする事業制度を創設、民間施設を含めた立体的整備を可能とする制度も拡充

### (2)公共交通利用の促進

#### ①バス等の利便性向上

- ・リバーシブルレーン・バス専用レーンの導入等により公共交通の利用を促進
- ・利用者とのコミュニケーションや啓発活動を通じた過度な自動車利用から公共交通や自転車の利用への行動変容を促す取り組みの実施
- ・相乗りマッチング等のTDMに取り組む民間組織の育成・支援

#### ②移動困難者への対応

- ・福祉施策との連携やNPOとの協働等によるコミュニティバスやデマンドバス等の小規模な公共輸送サービスの確保

## 4. 基幹ネットワークの戦略的な整備・活用

### (1)大都市・ブロック中心都市におけるネットワークの緊急強化

- ・環状道路など、飛躍的にネットワーク機能を高める抜本的対策を加速
- ・「渋滞の名所」と呼ばれるボトルネック箇所への集中的対策を実施
- ・路肩の活用などの運用改善、既設出入口の時間運用等ネットワークを最大限に活かす工夫

### (2)国土のミッシングリンクの迅速・効率的な解消

- ・人口減少社会に対応し、地域間で機能・役割を効率的に分担する連携生活圏を形成するためには、基盤となる道路ネットワークが重要
- ・脆弱な地域の災害への対応力を高めるため、走行性の高い国道も活用し、国土のミッシングリンクを迅速かつ効率的に解消

### (3)整備プロセスの透明化

- ・高速道路や並行する国道などを含め、整備計画の制度等を一体的に整理し、整備プロセスを透明化

### (4)効率的な物流ネットワークの強化

- ・コンテナの大型化に対応した物流ネットワークの再検証
- ・橋梁補強、バイパス整備等の緊急対策の実施による国際海上コンテナ車の通行支障区間解消
- ・道路構造物の状況、物流効率化を考慮した、特殊車両通行許可制度の見直し

## 5. 防災も含めた国土の信頼性確保

### (1)大規模広域地震への備え

#### ①道路網の防災・減災対策による国土・地域の耐災性の向上

- ・ネットワークの多重性・耐災性を適正に評価、ミッシングリンクを解消
- ・道路施設が持つ副次的機能による減災への貢献

#### ②発災後の的確な災害対応の実施

- ・広域的な道路啓開・応急復旧等、大規模地震に対する事前準備

### (2)全国各地で頻発する集中豪雨や大雪に対する道路網の信頼性と安全性の確保

- ・災害に対する道路の通行確保の程度(アベイラビリティ)を明確化
- ・豪雨等に対する通行規制の運用等を改善

### (3)様々な手段を効果的に活用した災害情報の提供

- ・通行止め情報等の一元的かつわかりやすい提供
- ・情報収集・提供にあたっての沿線店舗等の協力、カーナビ・携帯電話の活用

## 6. 持続可能で的確な維持管理・更新

### (1)道路ストックの長寿命化

- ・道路橋の予防保全によるライフサイクルコストの縮減
- ・道路構造物の棚卸しによる将来的な維持修繕・更新費の算定
- ・技術開発や技術者の育成を通じたアセットマネジメントシステムの確立
- ・事業者等への啓発を行った上で、大型車両の違反通行データの活用、違反者の公表等による指導・取締りの実効性向上

### (2)効率的な維持管理の実施

- ・データ収集・分析による「的確な維持管理レベルを設定
- ・コスト削減等の工夫と「地域・利用者との協働による維持管理

## 7. 低炭素型モビリティの普及促進に向けた対応、道路空間のグリーン化

### (1)低炭素型社会への対応

#### ①交通流対策によるCO<sub>2</sub>発生抑制

- ・道路ネットワーク整備・ボトルネック踏切等の対策やITSの推進による交通流の円滑化

#### ②低炭素型モビリティの普及促進への対応

- ・電気自動車向けの充電施設の設置、自転車利用環境の整備・支援

#### ③道路施設の省エネ化

- ・LED照明の積極的な採用、再生可能エネルギー発電施設の活用

### (2)道路空間のグリーン化

#### ①ヒートアイランドへの対応

- ・街路樹の再整備、芝生舗装等の活用

#### ②持続可能な社会への貢献

- ・道路における環境負荷の低減(リサイクル材などの環境にやさしい材料や工法の採用、生物多様性に配慮した環境保全措置)

#### ③沿道環境の保全・創造

- ・良好な沿道環境の保全・創造(遮音壁の設置など沿道騒音対策の推進、TDM施策等による沿道環境の保全)

# 道路分科会建議 中間とりまとめ

## V:施策の進め方についての提案 要約版

### 1. 多様な利用を促進する新たな枠組みの検討

- 多様化する利用ニーズ、地域づくりやまちづくりとの関係、他の交通機関との連携などの観点からの道路機能の再整理
- 道路における自転車・公共交通などの位置付けの再整理、多様な機能・利害に応じた道路利用ルールと調整方法の明確化、「道路網管理」の考え方の導入など道路の利用に対する新たな枠組みの検討
- 利用に関する計画の継続性の担保を目的とした「道路の利用に関する計画（仮称）」の策定

### 2. 利用者との協働による道路の総合的なマネジメントの導入

#### (1) 利用者の視点に立ったニーズの把握

- 既存の道路を賢く利用するための道路の使われ方の的確な把握（人・自転車も含めた道路の使われ方、利用目的に応じた沿道も含めた地域単位でのデータ取得）
- データ共有化のための情報プラットフォームの構築
- 道の相談室等のサービス向上
- 多様な主体、市民参画を通じて、現状を把握し、道路施策の決定につなげるPDCAサイクルの充実

#### (2) 多様な主体との協働

- 多様な主体との積極的なパートナーシップによる道路サービスの実現（管理・改善段階におけるNPO等の道路サービスの担い手としての位置付け、活動に必要な情報提供や民間からの寄付の促進）
- NPO等の柔軟な発想やアイデアの活用や技術的・制度的にチャレンジできるような社会実験の導入

### 3. 早期の事業効果発現のための環境整備と評価の充実

#### (1) 事業のスピードアップ

- on time on budgetの事業マネジメントの強化（土地収用法の活用による手続きの迅速化、事業進捗を図るための技術評価、工程管理を徹底するCM方式やFIDIC約款を参考にした契約方式の導入、受注者側のインセンティブが働くような仕組みの導入）

#### (2) 評価システムの充実

- 道路事業の目的や効果に見合った評価手法の構築（緊急性が高い箇所に対する迅速な評価、都市再生・地域活性化や救急搬送にかかる効果の計測）
- 計画段階評価の導入による事業の計画に対する合意形成の充実

### 4. 技術開発・活用による品質確保と道路の進化

#### (1) ライフサイクルコスト(LCC)の最小化と道路の品質確保

- LCC最小化の視点をより重視した総合的なコスト削減の推進
- 工事完成から一定期間後の品質確認・評価の仕組みの導入
- 施工と維持管理、設計と施工を一体とした契約による品質の確保

#### (2) 技術開発と民間の技術力活用

- 企業の技術力をより活用する発注方式の適用拡大
- 産・学・官が連携した効果的な技術開発の促進
- 良い成果をあげた受注者、企業による技術開発にメリットを与える仕組みの検討

#### (3) ITSによるサービスレベルの向上と道路行政の変革

- プローブ情報や車載カメラ情報などを収集し、道路のマネジメントや管理への活用により道路行政を効率化
- 道路インフラからの情報に基づく適切な情報提供や自動車制御との連携を推進
- 世界をリードする我が国のITSの更なる発展により道路交通問題を解決

#### (4) 進化する乗り物への対応

- 新しいモビリティの実現に向けた技術研究開発
- 道路空間の再配分等に際しての公平なモビリティ環境の実現

### 5. 持続可能で多様な財源制度

#### (1) 持続可能で公正な高速道路料金制度への転換

#### (2) 道路の維持、管理、更新などにかかる新たな負担のあり方

#### (3) PPP/PFIの積極的な導入

※ [ ] は新たに取り組む施策、 \_\_\_\_\_ は今後更に検討を進める事項